

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

3-1

提出日	令和5年4月28日	
記入者	団体等名	NPO 法人病児保育をつくる会
	記入者名	三上 久子
	部署名	子育て支援課
	記入者名	飯野 耕太郎

1 | 協働事業の概要

協働事業名	緊急サポート事業	
事業の実施者	団体等	NPO 法人病児保育をつくる会
	行政	子育て支援課
事業の目的及び目標値	<p>【目的】 緊急性を伴う預かりを行うことにより、保護者の仕事と育児の両立を支援する。</p> <p>【目標値】 利用件数 40 件</p>	
事業の内容	小学生まで児童を対象に病気、急な出張、保育施設での急な呼び出しがあった場合の送迎など、緊急性を伴う預かりを会員同士の相互の助け合いで行う。	
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	利用件数 5 件(預かり 5 件、送迎 0 件)、利用会員数 223 名、協力会員数 26 名	
協働事業決算	総額924,000円 (うち市負担分924,000円)	
	簡単な内訳	委託料 (内訳) 人件費 657,519円 広報費 41,555円 講習会費用 64,869円 保険費用 9,713円 通信費 42,139円 一般管理費 91,667円 その他 16,538円
実施期間	令和4年4月1日 から令和5年3月31日 まで	
協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助	

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり振り返り段階

話し合いをした日： 令和5年4月20日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題(共有・認識の差等)を相手へ伝えましたか。(記述式) 【団体⇒行政】 サポート会員の加入に向けて、講習会の実施時期や事業内容について共有を図った。 【行政⇒団体】 同上		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。(記述式) 記入者【 団体 ・ 行政 】 サポート会員に係る講習会の周知方法を改め、受講者が増加するような改善策を図り共有した。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

3-2

提出日	令和5年4月14日	
記入者	団体等名	NPO 法人たすけあい・よしかわ
	記入者名	代表理事 野田 妙子
	部署名	健康長寿部 長寿支援課
	記入者名	石塚晶則

1 | 協働事業の概要

協働事業名	生涯現役の養成事業～世代を越えた交流による、元気シニア創生とまちづくり～	
事業の実施者	団体等	NPO 法人たすけあい・よしかわ
	行政	健康長寿部長寿支援課
事業の目的及び目標値	<p>本事業は、これまで地域社会と関わる機会が少なく地域デビューに結びついていない男性シニアや、これから退職時期を迎える男性シニアなどに向けた地域活動等への参加支援を実施することで、地域デビューへの不安を取り除くとともに地域活動等への参加促進を図ることを目的とする。</p>	
事業の内容	<p>男性シニアの地域活動などへの参加を後押しするため、NPO 法人たすけあい・よしかわに事業を委託し、シニア元気塾(グループ別活動)を実施した。また、シニア元気塾たまり場の運営を行い、参加者の自主的活動の支援、交流、情報交換を行った。</p>	
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	<p>1 シニア元気塾の開催 野菜作り、高齢者福祉の増進(福祉有償運送事業)、スポーツで子どもたちと交流、吉川市歴史探訪・ウォーキングの4グループで活動した。 参加者数:延べ 389 名 (福祉有償運送事業については 1,631 件の利用があり、9,326 キロの運送を行った。)</p> <p>2 シニア元気塾たまり場の開催 毎月第1・第3水曜日に平沼地区高齢者ふれあい広場において、参加者の自主的活動(笑いヨガ、歌声喫茶)の支援、シニアへの情報提供と相互交流の場作りを行った。 参加者数:延べ 208 名</p>	
協働事業決算	総額 982,000 円 (うち市負担分 982,000 円)	
	簡単な内訳	委託料
実施期間	令和4年4月1日から 令和5年3月31日 まで	
協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助	

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり振り返り段階

話し合いをした日： 令和5年 4月 7日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	<p>事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題(共有・認識の差等)を相手へ伝えましたか。(記述式)</p> <p>【団体⇒行政】</p> <p>多くの市民に参加してもらうためには、行政の支援(広報等)は重要。コロナ禍においては、感染対策をしながら参加者の自主的な活動を支援していく必要があり、また持続性のある事業展開のために子育て世代も巻き込んでいきたいと考えている。地域に根ざした市民団体の力という強みと役割を活かして、活動できている。</p> <p>【行政⇒団体】</p> <p>コロナ禍において活動やイベントの企画運営が困難な状況であるが、各グループで工夫し、地域活動の参加促進に努めていた。</p>		
6	<p>上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。(記述式)</p> <p>【団体】</p> <p>引き続き、持続性のある事業展開を目指しつつ、事業の目的に沿うような事業を展開し、新たな参加者の新たな活動の創出につなげていく。</p> <p>【行政】</p> <p>事業目的である男性シニアおよびアクティブシニア層の地域活動の参加促進を図るため、事業の参加者募集や団体の取り組みについて広報を行うなど、引き続き支援を行っていくとともに、適宜事業内容に等ついて見直しを進めていく。</p>		

提出日	令和5年4月15日		
記入者	団体等名	吉川市自治連合会	
	記入者名	高崎 康男	
	部署名	吉川市市民参加推進課	
	記入者名	岡庭 侑香	

1 | 協働事業の概要

協働事業名	地域課題を地域で解決するための勉強会		
事業の実施者	団体等	吉川市自治連合会	
	行政	吉川市市民参加推進課	
事業の目的及び目標値	様々な地域課題の解決に向け、市民と行政との協働で研究を行い、活気と幸福実感あふれるまちを目指す。		
事業の内容	<p>①地域減災班②多文化共生班③自治会課題班の3つの分科会に分かれ、「地域課題を地域住民が解決するための事業」について研究・実施した。</p> <p>【令和4年度の取り組み】</p> <p>① 多文化共生班…自治会や生活の困りごと等に関するアンケート集計結果を報告 「やさしい日本語でつながる」について、講師を招き講話を開催</p> <p>② 自治会課題班…「リビングラボ」について、講師を招き講話を開催</p> <p>③ 中曽根小学校区まちづくり協議会設立…先進地視察(埼玉県鶴ヶ島市等)、 「中曽根小学校区まちづくり協議会減災プロジェクト X2022」の開催</p>		
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	<p>令和4年度実績(実施日、参加人数)</p> <p>①多文化共生班…1/23(10名)、2/20(8名)</p> <p>②自治会課題班…3/14(12名)</p> <p>③中曽根小学校区まちづくり協議会…6/1、7/12、8/8、10/31、11/26、12/19 (各12名)</p> <p>減災部会…9/9、9/12、10/12、11/25、2/8、3/2 (各6名)</p>		
協働事業決算	総額 124,620円 (うち市負担分 124,620円)		
	【内訳】 講師謝礼:124,620円(市負担)		
実施期間	令和4年4月1日 から 令和5年3月31日 まで		
協働の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助		

2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

「△」は、一部実施できなかった場合に選択してください。

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返し段階

話し合いをした日： 令和5年4月14日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	<p>事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）</p> <p>【団体⇒行政】 様々な地域課題を解決するために、自治会関係者だけではなく、困りごとがある当事者（外国人の方等）の話を直接聞く機会をどう増やしていくかが課題である。自治会の枠にとらわれず、他団体・多世代の生の声を聞きながら議論することで、本当の意味で様々な立場の方に「吉川市に住んで良かった」と思ってもらえるまちづくりにつながると感じた。</p> <p>【行政⇒団体】 自治会の枠を超えた新たな地域コミュニティ組織の取り組みについて、当市において初めての設立事例となった。減災についての訓練を実施し、地域間の交流の場が図られたが、今後については、新たな地域コミュニティ組織への理解をどう深めていくかが課題である。</p>		
6	<p>上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）</p> <p style="text-align: right;">記入者【 団体 ・ 行政 】</p> <p>自治会活動においては、コロナ禍で地域イベントの自粛が続き、会員間の連携が以前よりも弱まっているなかで、自治会の枠にとらわれず、他団体・多世代の生の声を聞きながら連携を深めていく必要がある。次年度は、新たな視点で地域課題を捉え、分科会テーマを再設定したり等、さらに活動内容を広げられるよう、引き続き検討していく。</p>		